

全国協議会 ニュース

2011年4月1日発行 第226号

発行所
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク
推進連絡協議会
〒160-0005 東京都
新宿区愛住町23-1
Woody21-9階
TEL.(03)3356-8217
FAX.(03)3356-8637
発行責任者:中野勝博
http://www.marrow.or.jp/
E-mail:office@marrow.or.jp

郵便振替口座
00150-4-15754
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655

白血病F0開設以来初めての中止 東北地方太平洋沖地震の影響で

3月11日に東日本を突如襲った東北地方太平洋沖地震。犠牲になられた方々、そして被災された皆様は、心よりお悔やみ、またお見舞い申し上げます。

全国協議会事務局(東京・新宿)は10階建てビルの9階にあり、かなり大きな揺れを感じ、常勤する事務局員は慌てふためきました。

翌12日は、白血病フリーダイヤルの開設日でした。落下物が散乱した事務局内は、「帰宅難民」となって事務局員は戻らざるをえなかった事務局員

が整理し、翌日の開設に備えましたが、交通網がマヒしていること、余震が続いていること、さらに電話回線が安定的に確保されないこともあり、相談員の安全を第一に考えて、1996年7月の開設以来初めての中止を余儀なくされました。お盆も年末も、そしてお正月さえも三日を除いて開設してききましたが、今回はやむを得ませんでした。中止はこの1日のみで、翌週からはまた通常どおり運営されています。

被災地の復興にはかなりの

第6回役員選挙のための選挙 開票結果

第6回役員選挙のための選挙の開票を3月6日 全国協議会事務局にて行いましたので、その結果を下記の通り報告します。

2011年3月7日
選挙管理委員長 笠原慶一

◆公算理事
有権者(団体数) 42
投票者数 35 (投票率 83.3%)
有効投票数 35
無効投票数 0
最低得票数 12

開票結果

野平晋作	31票
村上忠雄	30票
木村純子	28票
柴谷春子	28票
後藤菜都美	28票
中野勝博	28票
菅 早苗	26票

心からのご寄付に感謝申し上げます

2月21日～3月20日

㈱タクトコーポレーション	現金	10,000円
エグゼクティブ㈱	現金	4,550円
熊谷ライオンズクラブ	現金	30,000円
熊谷ライオンズクラブ懇親会参加の皆様	現金	73,000円
株式会社プラスアール	現金	35,578円
第一生命保険㈱神戸支社	現金	19,625円
㈱THINKフィットネス	現金	913,664円
山田 康博	現金	9,880円
鈴木 純子	現金	1,340円
小幡 香菜	現金	10,000円
島田 幸子	現金	50,000円
ウツキトヨコ	現金	1,000円
匿名	現金	5,000円
山田 康博	現金	9,880円
●白血病患者支援基金		
ブルデンシャル生命保険㈱	現金	3,090,000円
レストラン沢羅木	現金	1,104円
㈱洋伸	現金	3,504円
八家ゴルフセンター	現金	2,432円
助産院中央病院	現金	12,746円
㈱ルーテックサクライ	現金	12,112円
めん処 英喜家本店	現金	1,731円
めん処 英喜家三島店	現金	10,311円
ファミリーマート大垣町町店	現金	9,173円
焼津センター薬局	現金	7,185円
星子ひさし整形外科	現金	7,023円
峯 カズミ	現金	2,000円
●佐藤さち子患者支援基金		
第1回移植者フットボール大会募金箱	現金	58,127円
梅原 保	現金	20,000円
水島 絵里	現金	5,000円
野村 伸子	現金	3,000円

活動資金の援助をお願いします
銀行口座
三井住友銀行 新宿通支店
普通 5666655
郵便振替口座
00150-4-15754
特定非営利活動法人
全国骨髄バンク推進連絡協議会



真つ赤なのぼりは一体感のしるし 箱根駅伝啓発活動寄付贈呈式

2月24日、壁一面に真つ赤なのぼりが貼られた、ブレデンシャル生命保険(株)東京第2支社に於いて、箱根駅伝での骨髄バンク普及啓発活動に對する寄付金贈呈式が行われ、ハンラハン社長から大谷会長に目録が渡されました。

贈呈式には、2度のドナー経験者である佐々木貢一さんと沿道ボランティアとして参加された奥様の敏子さん、同じく沿道ボランティアとして参加くださった移植経験者で自らを「闘病するカメラマン」と呼ぶ鳥羽雅行さんが出席されました。鳥羽さんは「ブルデンシャル生命のみならず、皆さまからの心優しい善意に感謝しております。また、大谷会長はじめ、善意に満ちあふれた

小川真理 22票 当選
川瀬和子 21票 当選

※なお、立候補者のなかった役員については、役員選考規程第13条に基づき、役員選考委員会により、役員有資格者が選出されます。

ドナーの方々の話しにあらためて感動し、一緒に活動できたことを感謝いたします。今後は、ドナーさんを待ちながらも身辺の整理をしていたあの辛い経験を軸として、当時の自分と同じ立場におられる、患者さんのお力に少しでもなりたいと心より望んでおります。」とおっしゃっていました。

参加した社員やご家族の人数に乗じた寄付額はもちろんのこと、ブルデンシャル生命の社員の皆さまの一体感にも感動いたしました。本当にありがとうございます。

(菅原)

全国骨髄バンクボランティア大会 in 大垣 協力団体も心を込めて準備中です!

全国骨髄バンクボランティア大会 in 大垣の開催にあたり、大垣で生まれ育ち、白血病により5歳3カ月で天国へと旅立つて逝った長男・航平のパネル展が同時開催されることになりました。

笑顔で病氣と向き合い、最後まで自分らしさを失うことなく輝いていた航平。弟たちと遊びたいという思いが彼を支えていました。

そして、航平の帰りを心待ちにしていた二男は、大好きな兄ちゃんを助けたいと、わずか2歳7カ月に骨髄を提供してくれました。

二人の写真をパネルにして、準備を進める中、兄弟の絆がどんなに深いのかを再認識し、胸がいっぱいです。



多くの来場者に、参加者も白熱 フィットネス・フェスタ開催

今や恒例のイベントになりつつある「骨髄バンクチャリティイベント ゴールドジムスクール発表会」(㈱THINKフィットネス主催)が3月6日、きゅりあん(東京・大井町)にて開催されました。

今年も過去最高の1179名のお客様が来場。ゴールドジム各店に通うスクール生が36チームにわかれてダンスやエアロビクス等を披露しました。また、スペシャルゲストとしてチアリーディング世界大会第2位の桜美林大学ソングリーダー部や、2010年全日本ボディビル選手権優勝の鈴木雅氏、全日本ボディビル選手権13連覇を

誇る小沼敏雄氏が登場し、見事なパフォーマンスでステージに花を添えました。

発表会の中盤には実行委員長の米倉様より、各店舗で集められた募金が寄付金として大谷会長へ贈呈されました。回を重ねるごとに「寄付した金も増えたり、ゴールドジムのスタッフの皆様のお力添えなくしては成し得ないことだと感謝するとともに、ご寄付いただいた皆様の暖かいご協力に心よりお礼申し上げます。

(新本)

- 6月4日(土)
◎全国骨髄バンクボランティア大会 in 大垣 13:00~16:30
(大垣市サイトピアセンター 文化会館 文化ホール)
記念式典・パネルディスカッションほか
- ◎懇親会 17:30~20:00 (フォーラムホテル・会費5000円)
- 6月5日(日)
◎全国協議会総会・代表者会議 (大垣市サイトピアセンター 学習館 サイトピアホール)

骨髄バンクの最新情報をお知らせする

(財団マンスリー JMDP (3月15日発行) より抜粋)

●東北関東大震災への対応について
3月11日(金)東北、関東を中心に東北関東大震災が発生しました。財団におきましては、速やかに震災対策本部を設置し、コーディネートを中心に今後の方針を検討するとともに各地区事務局と連携し、対応を行っています。コーディネートの今後の方針につきましては、財団のホームページで随時掲載して参ります。

●骨髄液等の凍結に関する今後の対処方針について
これまで医療委員会、ドナー安全委員会、倫理委員会そして常任理事会において、凍結における基準のあり方に関して審議されてきました。しかし、患者さんの状況は多様であり、現段階での基準策定は困難であるとされ、今後、個々の事例を積み重ねて基準策定を検討していくことになりました。

●骨髄液等の運搬について(運搬業者への委託について)
現在、骨髄液の運搬は移植施設(医師等)が運搬していますが、財団では医師等の負担軽減や運搬の安全確保の観点から運搬専門業者への委託を検討の結果、常任理事会において、安全、確実に運んでいただくハンドキャリー(運搬専門業者の担当者が手持ちで運搬する)による運搬を導入する方針が確認されました。これにより、運搬業者の選択幅が広がりますが、移植施設において、運搬専門業者に委託するかどうかを決定していただきます。骨髄液の他、末梢血幹細胞の運搬にも適用されることとなります。

●非血縁者間末梢血幹細胞移植診療科・採取施設の認定について
これまでに認定された施設は20施設です。なお、これに加えて当面更に5~6施設のサイトビジットを予定しています。新規認定

骨髄バンク NOW

施設については、財団のホームページ「患者さんへ」の「移植認定病院」および「ドナー登録されている方へ」の「面談施設一覧」でもご覧いただけます。

●新しいクリック募金
2月から新しいクリック募金が始まりました。サイト名は「smile CLOVER」です。サイトを見た方が1日1回のクリックをすることで、サイトの運営会社である株式会社メディネットから1円が財団に寄付されます(アドレス⇒http://www.clover.sc/ ドナーズネットのトップページからも入れます)。「diffクリック募金」と併せ、1日1クリックのご協力をお願い致します。

■2月の区分別ドナー登録者数: 献血ルーム/1,055人、献血併行型集団登録会/1,384人、集団登録会/34人、その他/72人

◆日本骨髄バンクの現状(平成22年2月末現在)

	1月	2月	現在数	累計数
ドナー登録者数	2,853	2,545	379,128	493,517
患者登録者数	234	192	2,873	32,317
骨髄移植例数	94	101	-	12,693
20歳未満ドナー登録者	-	137	14,289*	-
51歳以上ドナー	260*	97*	21,837*	-

注) 数値は速報値のため次月以降に訂正されることがあります。
*1) 17年3月~ *2) 51歳以上ドナーの延長数 *3) 51歳以上ドナーの新規登録数 *4) 17年9月~

啓発に 講演会に 学会会場でも精力的に活動

3月9、10日の2日間、愛媛県松山市のひめぎんホールで開催された「第33回日本造血細胞移植学会総会」の会場で、「いのちの輝き展」を開催いたしました。

学会長である愛媛県立中央病院がん治療センター血液腫瘍内科、原雅道先生のご厚意で提供いただいたスペースに、あやちゃんの絵、MAMOのメッセージ、患者とドナーのお手紙をそれぞれ数点ずつ展示し、総会に参加されていた大勢の医師、看護師の方達が足を止めじっくりと見入っていただきました。併せて持参した小冊子や「ドナー」になってどんなこと、バンダナやクリアフォルダーなども好評のうちに完売し、身も心も軽く(?)なつて撤収、帰路についたのです。(小川)



学会2日目の3月10日早朝、A・P・A・R・T日本支部事務局と全国協議会の共催で「造血器疾患患者の不妊対策、配偶子凍結保存の現状」についての講演会を開催しました。昨年に続き、2回目の共催となります。

A・P・A・R・Tは民間不妊治療機関の国際学術団体であり、日本支部では所属する20の施設において、未婚女性腫瘍患者の治療後の妊孕性の温存に資する目的で、不妊治療のために開発した安全な卵子採取法、ならびに高い生存率の得られる未受精卵凍結法を応用した臨床研究を行っています。



(大谷)

今月の 共催イベント

群馬県高崎市
群馬県骨髄バンク
シンポジウムin高崎

2月27日、イオンモール高崎のイオンホールで群馬県骨髄バンクシンポジウムが開催されました。前半はプロスノーボーダーで移植経験者の荒井「daze」善正さんの講演。後半は「プロジェクトX 決断 命の一滴」の上映を行いました。今回はイオンモール高崎のホームページで開催を告知していただいたり、当日会場前で「チャンス」とポケットティッシュの配布をさせていただき、来場者は60名ほどになりました。

荒井さんの講演では、ご自身の闘病生活とその中で得たものとして、「一步を踏み出す勇氣」や「活きることの大切さ」を熱く語っていただき、みなさん熱心に耳を傾けていました。終了後、講演を聴いた方から「移植後にも壮絶な闘いがあるということを知り、ありがとうございました」との声も寄せられました。

群馬県は単位人口あたりのドナー登録者数が全国最下位。これを打破するためにNHKの番組「欽ちゃんのワースト」

大阪府大阪市
大阪であやちゃん展
原画に感動 会期も延長



東京の会が20周年記念に作成した、平成23年版「あやちゃん」の贈り物カレンダーが、毎日新聞の記事になりました。それを讀んだ大阪・芝田町画廊の猪井虎治さんが、カレンダーを注文してくださり、そこから原画展の開催にまで進展しました。

1月31日から2月26日まで、芝田町画廊のご協力で、原画70点、遺品などを展示し、2階ではテレビで放映された番組がビデオで流されました。

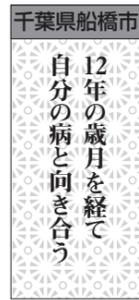
私はあやちゃんの原画と対面したい気持ちを抑えられず、1月30日の夜行バスに飛び乗りました。翌朝、画廊のマネージャー吉田隆博さんご夫妻のあたたかい人柄に触れ、すばらしいあやちゃん展を見て心から安堵し、感謝して帰路につきましました。



2月14日には関西テレビで報道されて、たくさんの方が見に来られ、当初19日までだった会期が26日まで延長されたのでした。全国協議会が作成したリーフレットが足りなくなつて追加補充され、用意したカレンダーや画集も全て希望者の手に渡りました。

東京の会にはあやちゃん展をみて感動した人たちが注目を集め、中でも「8歳の長女にぜひ見せたかったが、もう終わってしまったので残念です」という男性の電話は本当に胸が熱くなりました。(大塚)

千葉県船橋市
12年の歳月を経て
自分の病と向き合う



千葉の会設立20周年の記念行事として、3月5日に市民文化創造館・船橋きららホールにおいて、4名の血液内科の先生をお招きして医療講演会並びに個別相談会を開催しました。

会のメンバーは、早くから病院や調剤薬局へのポスター掲示、マスコミへの投稿等、告知活動に奮闘しましたが、相談会の事前申込みが芳しくなく、開催日当日まで来場者がいるのかどうか不安でいっぱいでした。

蓋を開けてみると、参加者60名、個別相談も当日受付を含め7名。講演会では熱心に



北海道札幌市
登録減少の危機脱出に
あやちゃんの力を!!

3月7日から12日まで、札幌時計台裏のギャラリートピアで、あやちゃんの贈りもの展を開催しました。

福岡県福岡市
茶話会形式で気軽に
勉強会&交流会

3月5日、リボンの会としては初の協議会の共催事業として、「医療勉強会と患者・家族交流会」を福岡市の浜の町病院会議室で開催しました。

誰でも気軽に喋れるように茶話会スタイルで行い、初参加の患者・家族の方が多数来られました。

血液疾患患者の抱える問題として、①治療方法や治療費、②精神的な不安、③社会復帰への不安の3つについて、グループに分かれ話し合い、その中で、臨床心理士の先生から、長期治療に伴い発症する「うつ病」の症状と対処方法を具体的に説明していただき勉強になりました。

これからは、医療講演会と並び、心理的なサポートを継続して行うために、患者会として、もっと交流会を増やす必要性を強く感じた有意義な会でした。(宮地)

各地の あなたより

富山
ソフトテニスでパネル展
移植患者との出会いも

2月26日、竹平記念体育館(高岡市)にてソフトテニスチャレンジin高岡(NPOソフトテニスチャレンジジャパン主催)が開催されました。主催者のご厚意で、昨年の塩釜大会同様に普及啓発の機会をいただき、富山の会では受付でハローキティポケットティッシュとギフトオブライフの配布、そしてロビーにて、骨髄バンクを通じて移植を受けた少女が描いた絵本「わたし、がんばったよ」パネルを展示しました。未来の全日本代表を目指す少女の皆さんが、コート上のトップアスリートの激しくも華麗なプレー観戦の合間に、食い入るようにパネルを見つめている後姿が印象的でした。

そろそろ撤収作業にかかろうかと思っていたところ、帽子メガネにマスクで完全防備した一人の女性が、声をかけてくれました。元AML患者さんで、バンクで見つけた適合者お二人からは提供を受けられなかったけれど、5座一致の小学生のお子さんからの移植を半年前に受けられたとのことでした。「骨髄バンク支援ボランティアの存在や活動に初めて出会い、感謝の気持ちを伝えられた、パネルを見て涙が止まらなかった」とおっしゃって下さいました。こちらこそ、この活動を続けていってよかったと実感した瞬間でした。(品川)



北海道のドナー登録者数は、昨年12月以来、新規登録を抹消数が上回るという事態に陥り、現在有効数が減少しております。

全国のドナー登録者数は累計で50万人弱、現在数38万人弱で、減少率は23%です。これを北海道にあてはめると、29%の減少率となります。別な角度から見ると、北海道のドナー対象年齢人口は全国の4.3%であるのに対し、抹消数は6.4%です。これは高齢化が進み、今までの登録者がどんどん抹消年齢に到達して新規登録が追い付かないためです。これは他県にも早晩あらわれる現象です。

この展覧会の目的は、あやちゃんの力を借りてあやちゃんさんの願いを伝え、防ぐことのできない抹消を上回る新規登録を、再び回復することでした。幸い、北海道新聞と朝日新聞が協力して大きく取り上げてくれましたので、これが功を奏することを願っています。(加藤)

各地のたよりを
写真を添えて
お寄せください。